



おもちゃ花火による事故を防ごう

いよいよ夏本番です。子どもも大人も夏の代表的な風物詩といえば「おもちゃ花火」ですね。しかし、この楽しい花火も、その原料は危険な「火薬」です。取扱いを誤ると、火災や怪我などが発生する恐れがあります。

1. 花火による事故事例

- 事例1 火災 打ち上げられたロケット花火に火種が残っている状態で、建物の外周部にはがれ落ちていた外壁塗装材の上に落下したことで着火し、出火。
- 事例2 のぞき込み 打ち上げ花火を噴出花火と間違え、導火線に点火後、のぞき込んでいると左目を花火が直撃。視力が低下した。
- 事例3 がん弄中 花火を分解し、火薬と鉛玉を容器に入れていじっていたところ爆発。親指の付け根を骨折した。

2. 花火による火災を防ぐ10のポイント

- ① 説明書をよく読んで注意事項を必ず守りましょう。
- ② 人や家に向けたり、燃えやすい物のある場所で遊ぶのはやめましょう。
- ③ 風の強い時は、やめましょう。
- ④ 必ず水の入ったバケツを用意しましょう。
- ⑤ 遊び終わった花火は、必ずバケツの水につけて、残り火を完全に消しましょう。
- ⑥ 子どもたちだけでなく、大人と一緒に遊びましょう。
- ⑦ 一度にたくさんの花火に火をつけないようにしましょう。
- ⑧ 正しい位置に、正しい方法で点火しましょう。
- ⑨ 吹出し、打ち上げなどの筒物花火は、途中で火が消えても筒をのぞくのはやめましょう。
- ⑩ 花火をほぐして遊ぶことはやめましょう。



以上のルールを「あたりまえだ」と思わないでください！子どもたちの好奇心や行動力は大人の想像をはるかに超えています。さらに、大人でも間違った使用方法により、火災や大怪我が発生した事例は毎年発生しているのです。

ルールに従って遊ぶことが重要です。楽しい夏を安全に過ごし、大切な思い出を作ってください。

● 女性消防団の「ちょっといい話」 ● <第23回>

消防団幹部研修に行ってきました!!

A：研修で淡路・神戸方面に行ってきました。

今回の研修のメインは阪神・淡路大震災。あれからもう13年も経ったんやけど、北淡町の「野島断層」と神戸市の「人と防災未来センター」を見学して、改めて地震の破壊力の凄さを感じたわい。

今回学んだ被害は私たちの想像をはるかに超えとった。

B：「人と防災未来センター」の1.17シアターは迫力があつたよ。地震きの音と建物が壊れる様子が体が固まってしもた。松前町には古い建物も多いけん、大地震の時には倒壊してしまうかもしれん。少しでも被害を少なくできるようにせないかんよね。

A：そのとおり。震災からの復興のドラマを見た時も泣けてしもた。崩れた家の中からお姉ちゃんが「私はいから逃げて！」と叫ぶ声、そしてその声が聞こえなくなった時……。

自分の家族だったらと思うだけで気が変になりそうやった。

B：ホントよね。もし身近にこんな災害が発生したら、たまらんよねえ。ほやけど、地震はいつどこで起こるか正確にはわからんのやけど、必ずいつか起こる。先日の中国の四川で起こった大地震もものすごい被害が発生したわいね。

私たちができることは、地域の自主防災組織の訓練や町総合防災訓練などにも参加して、地震に対する意識を高めること。あとはやっぱり緊急時に対応できる日ごろからの備えがなによりも大事なんよね。

A：この研修の教訓として、非常持ち出し品や備蓄品を点検せないかん！って強く思ったわい。備蓄食料品の消費期限が切れそうやったら晩御飯に出して、お父さんに食べてもらお。「災害訓練よ」って(笑)。ほして、新しいのを買っといたらええけんね。

皆さんも、備蓄品について、いざという時に食べられる物、飲める物などを用意しておくことからはじめよう。